1　北九州国定公園の山々

（1）福智山系

JR 日田彦山線の西側に位置し、最北端の皿倉山(622m)から山系最高峰の福智山(901m)をへて最南端の香春岳(504m)へ連らなる連山を福智山系という。

福智山を含め南の山々は植林が盛んで、縦走路はススキの草原をなし眺望は良い。牛斬山でいったん下るが、さらに南には石灰岩の鋭峰香春岳がそびえる。一の岳は上半部が削られ猿の生息地として知られる。二の岳も頂上まで車道がつけられ、三の岳のみが昔の姿で残っている。

一方福智山より北部は美林が続き、アカガシ、アラカシ、ウラジロガシなどのカシ類を中心とした中・高木林からなる。特に自然歩道、ホッテ谷上部は美しい。

福智山山頂からは福岡中央部の山岳のほとんどが眺められ、北九州、筑豊の人々に親しまれている。また、福智山麓の南西側には上野焼の窯元があり、東側には鱒淵公園の景勝地がある。

最北端の皿倉山は山岳公園としてケーブルカー、展望台などの施設が整い、北九州工業地帯が一望のもとに眺められ、市民の憩いの場となっている。皿倉山の山名由来は、神功皇后が西征の時に、この山の大岩から日暮れまで国々を眺望し、下山のとき更に日が暮れたので「更暮山」と呼ばれるようになった。これが転じて皿倉山になったといわれている。

2024 年に開催された「夜景サミット」において、1 位に認定されている。なお 2 位は横浜市、3 位は長崎市である。

この山系には貯水池も多く河内貯水池、畑貯水池、鱒淵ダム（貯水池)、福智山ダムと内ヶ磯ダムがある。これらの貯水池からの水系としては、河内貯水池は板櫃川となり洞海湾へ流れ込む。鱒淵ダム（貯水池）は紫川となり関門海峡に流れ込む。畑貯水池は黒川から遠賀川に、福智山ダムと内ヶ磯ダムは福地川から彦山川に流れ込み、さらに遠賀川となって響灘へ流れる。

（2）企救山系

北九州市の最北端、門司から小倉に連なる山系を企救山系という。響灘、関門海峡、周防灘を望み、北九州 100 万都市を眺望できる絶好の展望地である足立山(598m)を主峰として、戸上山(518m)、風師山(362m)、小文字山(366m)から成る。カシ類、イヌシデ、コナラ、タブ、アカメガシワなどの高木林に混ざってリョウブ、ヒサカキ、ネジキ、アオキなどの低木林が美林を作っている。また、この山系は福智山系と共に、渡り鳥の拠点になっており、鳥類の宝庫である。足立山山麓には、クス、アカマツ、スダジイの美林からなる森林公園があり北九州市民の憩いの場になっている。足立山は最高峰を霧ヶ岳とも呼び、昔は竹和山とも呼ばれていた。和気清麻呂が、「企救郡の山の下の温泉に入りなさい。」という神のお告げがあったので、言いつけ通りにすると足の傷がよくなり、また、足が立って山に登ったので、この山を「足立山」と呼ぶようになったとも伝えられている。森林公園のはずれに和気清麻呂が建立したといわれる妙見宮があり、霧ヶ岳の北のピークを妙見山といい上宮が奉られている。また、門司駅の背後の戸上山には、山麓の戸上神社の上宮である小さな鳥居と社が建っている。

（3）平尾台

日田彦山線の東側にはカルスト台地の平尾台がある。ここは昭和 27 年に天然記念物に指定され、貫山(712m)を主峰として大平山(587m)、水晶山(531m)、竜ヶ鼻(681m)の各山からなる。山間部には千仏・青龍・目白・牡鹿などの鍾乳洞があり、羊群原にはいたるところにドリーネが口を開けている。

２　コース案内

１日目（八幡中央高校から帆柱キャンプ場）

八幡中央高校を出発する。最初は車道を通るので車に注意しながら安全を最優先して進んでいく。元城町京良城町１号線に出ると右に進み、すぐに左側の脇道を登っていく。北九州都市高速道路の下を通過して元城町京良城町１号線に再び合流し左へ進む。ここもすぐに、車道を大きく右カーブするところから左に曲がる。さらに、すぐに直進と右に道が分かれているので右に進む。この後も数件家があるので迷惑をかけないように進んでいこう。

しばらく進むと左側に「花尾公園　花尾城址」に進む案内板があるがここはそのまま舗装路を直進する。この付近の植生は竹林が特徴的である。そのまま進むとフェンスを通過（図１）して、道も車道から歩道に変わっていく。

左側に花尾の泉と呼ばれる湧き水を通過し、登山道を進んでいくと**花尾山南分岐**に到着する。（図２）直進が花尾山、右が権現山となっているので右に進む。この辺りは分岐が多く、ショートカットや巻き道がそのまま登山道になった感じではあるが道を間違えないように地図を確認しながら進んで行こう。

５分程登ると花尾の辻と書かれた道標が現れる。ここにも権現山の方向が書かれているので、道標に従って右上に進んで行こう。この付近は照葉樹の森と案内板があり、特にスダジイやタブノキ、カゴノキが目に付く。さらに進んで行くと、道標があり「帆柱の辻、めぐみの森コース、花尾の辻」と書かれているので、道標に従い帆柱の辻方面の右に進んで行く。

そのまま進んで行くと間もなく**帆柱の辻**に到着する。（図３）道標には右が帆柱山頂となっているが、今回は左の権現山に進む。

しばらく歩くと舗装路に合流し、左に進んで行くと皇后杉の横を通過する。さらに進んで行くと、麓と通じる車道と左側から合流し、目の前に皿倉平と呼ばれる帆柱公園が目の前に現れる。公園の手前が交差点（図４）となっており、歩道も含めると６差路になっているが、一番右側手前に大きく曲がり、登っていくと**帆柱キャンプ場**に到着する。

図１　フェンスを通過する

図２　花尾山南分岐

図３　帆柱の辻

図４　皿倉平手前の交差点

２日目（帆柱キャンプ場から内ヶ磯）

幕営場から１日目のルートを引き返し、**皿倉平**をスタート地点とする。今通過したキャンプ場に登る道の左側の遊歩道を進んで行く。ほぼ平坦な道を進んで行くと一つ目の左への分岐があるがここは直進する。さらに進むと、２つ目の分岐が現れるのでここを左へ下っていく。（図５）ここから九州自然歩道を歩くこととなる。

図５　２つ目の分岐を左へ曲がる

しばらく九州自然歩道を進んでいくと一部露岩の上を歩く場所がある。ここを越えると急斜面をトラバースしながら下っていく。この区間はカラスザンショウが点在している。安易に木につかまるとトゲで怪我する可能性があるので充分に気を付けよう。また、先程の左に曲がる場所から市ノ瀬峠までは、怪我防止のために手袋を着用しよう。

急斜面が終わり緩やかな道を進んで行くと右側に鷹見神社への分岐がる。ここはそのまま直進すると車道に到着する。ここが**市ノ瀬峠**である（図６）。一旦車道に出でて左に進み、右カーブを曲がった所で右側に登山道が現れるので、車に注意しながら横断し登山道を進もう。

図６　市ノ瀬峠

登山道に入るとすぐに「八又の桜」が現れる。その名前通り８本の幹がひとつの大木となっている。ここを通過して、さらに進んで行くと、左方向に建郷山山頂へと進む案内板があるが直進し、下っていくと**田床峠**に到着する。案内板には左に中河内林道と書かれているが直進する。ここから、さらに進んで行くと本日の大会コースで唯一となる**白畑山**に到着する。山頂をそのまま下っていくと、左に双伍山への分岐がある。ここも右側の九州自然歩道をそのまま進んでいく。ここからしばらくは山腹をトラバースしていくが、途中道が細くなっている個所もあるので声を掛け合いながら進んで欲しい。この区間はカゴノキが目立つ。トラバースの終了する地点には別の双伍山に向かう道が左側にあるが、こちらから山頂に向かうには不明瞭な道となっている。この分岐を通過し再び尾根道となり進んでいくと、自然林が伐採された開けた場所に出る。自然林に囲まれた登山道であるが、開かれた場所からはすぐ横はヒノキの植林地帯であることが確認できる。まもなく観音越に到着するが、直前に左カーブとなっている場所を直進すると音滝山に到着してしまう。登山道としては地図には載っていないが間違えないように**観音越**に向かおう。観音越に到着すると右が畑観音登山口、直進が尺岳方面。左は畑観音登山口方面となっている。この畑観音登山口には畑観音バス停があるので、エスケープルートとして確認しておこう。また、この付近はアオキが周囲を取り巻くように群生している。直進の尺岳方面へと進むが、ここから尺岳まで

図７　市ノ瀬峠到着後登山道へ入る

は基本的に登りが続くので水分･エネルギーの補給をしてしっかりと登ってほしい。しばらく進むと露岩が見えてくる。（図８）ここで登山道を見失いやすいが、この露岩の上を歩いていくとすぐにはっきりとした登山道に戻るので間違えないように注意しよう。左に田代バス停の標識を通過し、さらに進むと**田代別れ**に到着する。ここも左に田代登山口の分岐があるが、ゴール地点の逆側となるためここはエスケープルートには使えない。ここからは急登が続く。雨の日は赤土で滑りやすいのであろうか、登山道が数本存在している。状況に応じて使い分けてもよいが本線を見失わないように確認しながら進もう。ヒノキの植林の中をしばらく進んでいくと傾斜が緩やかになり、伐採され新しく植林されてまだ年数もあまり経ていないであろうスギの植林の間を進んでいく。さらに進んでいくと右側に竜王峡バス停分岐、続けて右側に畑登山口（欅谷口）の分岐を通過し**尺岳平**に到着する（図９）。到着したらチェックポイントなのでチーム名と体調を報告すること。尺岳平から右が尺岳山頂、左が山瀬越方面となる。今大会では尺岳山頂は踏まないので左の山瀬越に向かおう。ここから山瀬越までは大きなアップダウンもなく進みやすいだろう。この付近はアカガシが目立っている。右に竜王峡分岐、その後林道を横断して**山瀬越**に到着する。山瀬越からは直進が福智山であるが、今回はここで九州自然歩道から外れて右に向かう。

すぐに林道と合流するのでここを左に曲がって下っていく。しばらく進むと左側の豊前越分岐を通過する。緩やかに林道をしばらく下っていくとゲートが現れるので、ここを通過する。するとすぐに左側に登山道が出てくるので左側に進む。いったん舗装路に出るが、すぐにまた左側の登山道に進む。もう一度舗装路に入り左側の登山道に入り進んでいくと、沢に橋（図１０）が架けられているので橋を渡り**福智山登山口**に到着する。ここは福智山ダムを周回する一方通行の車道になっているので後ろからの車に気を付けて歩こう。車道を左に曲がりゴールを目指していく。トンネルをくぐり、右のヘアピンカーブのところで神社に向かう道があるので左折しよう。鳥野神社から石段を下って車道に出るとゴールである内ヶ磯（図１１）に到着する。

図８　露岩を歩く

図９　尺岳平（チェックポイント）

図 10　福智山登山口手前の橋

図 11　内ヶ磯ゴール付近

3　大会山域の主な地名

【主な地名】

帆柱山・・ほばしらやま	権現山・・ごんげんやま	花尾山・・はなおやま
建郷山・・たてごうやま	市ノ瀬峠・・いちのせとうげ	田床峠・・たどことうげ
双伍山・・ふたごやま	音滝山・・いんだきやま	白畑山・・しろはたやま
観音越・・かんのんごえ	田代別れ・・たしろわかれ	尺岳・・しゃくだけ
山瀬越・・やませごえ	内ヶ磯・・うちがそ	上野・・あがの
直方・・のおがた	上上津役・・かみこうじゃく	頓野・・とんの
河内・・かわち	道原・・どうばる	鱒淵・・ますぶち
頂吉・・かぐめよし	管生の滝・・すがおのたき	七重の滝・・ななえのたき
大塔の滝・・おおとうのたき		

4　大会山域の主な植物と生物

【主な植物】

タブノキ	アオキ	ヤブツバキ	スダジイ	タブノキ
カゴノキ	スギ	ヒノキ	アカマツ	ハイノキ
カラスザンショウ	アカガシ	アラカシ	ウラジロガシ	リョウブ
ネジキ	タンナサワフタギ	クズ	アカマツ	コナラ
ノアザミ	ノコンギク	ツリフネソウ	リンドウ	カンアオイ

【主な生物】

シジュウカラ　ゴジュウカラ　　ヤマドリ　アサギマダラ

4　荒天対策

11 月 8 日に起こった場合

	地震（震度 5 弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
11 月 8 日	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
11 月 9 日	帰宅完了	通常行動	通常行動

11 月 9 日に起こった場合

	地震（震度 5 弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
11 月 9 日	大会中止 早期帰還準備	行動中止 早期帰還準備	通常行動

※上記を基本に計画していくが、現地の状況や最新の情報により変更もあり得る